

**令和 5 年度 視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」幼児児童生徒の実態調査
調査の回答にあたってのお願いと調査項目一覧**

1. 調査の対象となる幼児児童生徒について

(1) 貴校に在籍している幼児児童生徒及び教育相談を実施している幼児児童生徒を対象とします。

(2) 「盲ろう」とは、視覚と聴覚の両方に障害のある状態で、視覚聴覚二重障害とも言われます。障害による見え方と聞こえ方の状態の組み合わせによって、全盲ろう、全盲難聴、弱視ろう、弱視難聴という 4 タイプに大別できます。視覚障害及び聴覚障害の状態については、特別支援学校の対象となる「学校教育法施行令 22 条の 3」を基準としてください。

【学校教育法施行令 22 条の 3】

視覚障害：両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの。

聴覚障害：両耳の聴力レベルがおおむね 60dB 以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの

(3) 上記の視覚障害及び聴覚障害の他に、知的障害、肢体不自由、病弱など他の障害を併せ有する幼児児童生徒も対象となります。

(4) 分校、分教室を有している学校は、大変お手数をおかけいたしますが、本校、分校、分教室、それぞれ別にご回答ください。

2. 回答方法について

(1) 令和 5 年 5 月 1 日現在の状況をご記入ください。

(2) 回答は Web アンケートにアクセスしてご回答ください。

(3) 設問Ⅰの 1～4 は、盲ろう幼児児童生徒の在籍の有無に関わらず、ご回答ください。

(4) 盲ろう幼児児童生徒が在籍している場合は、続けて設問Ⅱ以降の「調査対象者に対する個別回答」にご回答ください。調査の対象となる盲ろう幼児児童生徒 1 名につき、設問Ⅱ（1）～（7）の各項目（全 42 の質問）にご回答ください。調査の対象となる盲ろうの幼児児童生徒が複数名在籍する場合は、それぞれの子供について設問Ⅱ（1）～（7）の各項目にご回答ください。

(5) 設問Ⅱ（1）～（7）の回答は、対象となる盲ろう幼児児童生徒の実態を校内で一番把握されている方がご回答ください。

(6) 回答は番号を選ぶ選択方式と具体的に記入または記述するものがあります。

3. 回答期限について

(1) 調査は、令和5年11月10日（金）までにご回答ください。

【本件問い合わせ先】

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 重複障害教育研究班

主任研究員 小澤 至賢

e-mail : v-db-survey@nise.go.jp

4. 調査項目

I. 学校の基本情報と盲ろう幼児児童生徒の在籍の有無について

1. 都道府県：

2. 学校名：

3. 対象とする障害種

貴校が対象とする障害種について、該当する箇所に○をつけてください。

(複数回答可)

- () ①視覚障害
- () ②聴覚障害
- () ③知的障害
- () ④肢体不自由
- () ⑤病弱

4. 盲ろう幼児児童生徒の在籍（教育相談を含む）の有無

貴校には、視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう幼児児童生徒が在籍していますか。もしくは、盲ろうの教育相談を実施している幼児児童生徒がいますか。なお、盲ろうとは、視覚と聴覚の両方に障害のある幼児児童生徒を指します。視覚のみ、または、聴覚のみに障害のある状態は含まれておりません。

() ①いる ⇒ 次の設問にご回答ください。

() ②いない ⇒ 調査は以上です。ご回答ありがとうございました。

Ⅱ. 対象となる盲ろう児の実態等について（調査対象者に関する個別回答）

あなたの学校に在籍する視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」の幼児児童生徒（調査対象者）お一人ずつについて、以下の（１）～（７）の各項目にご回答ください。

（※学校に盲ろう児が２名以上在籍する場合は、（１）～（７）の設定について在籍する人数分ご回答ください。）

５. 回答者名：**（１）対象者の学部・学年について****６. 対象者の性別**

（ ） ①男

（ ） ②女

７. 対象者の所属

（ ） ①幼稚部

（ ） ②小学部

（ ） ③中学部

（ ） ④高等部

（ ） ⑤高等部専攻科

（ ） ⑥教育相談（幼児、小学生、中学生、高校生、高校卒業生以上）

（ ） ⑦その他

８. 学年等 *就学前の場合は年齢を記入ください。

（ ） 年 ／ （ ） 歳児

９. 対象の盲ろう児童生徒が在籍する学級

（ ） 単一障害学級

（ ） 重複障害学級

10. 対象の盲ろう児童生徒が在籍する学級の教育課程

（ ） 準ずる教育課程

（ ） 下学年適用の教育課程

（ ） 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程

（ ） 自立活動を主とした教育課程

(2) 視覚障害について

測定視力：(不明・測定不能の場合は、「N」と記述して下さい)

11. 裸眼視力 右：()

12. 裸眼視力 左：()

13. 矯正視力 右：()

14. 矯正視力 左：()

15. 視野障害：

() ①ある

() ②ない

() ③不明

16. その他の視覚障害： ()

17. 視覚障害の原因（複数回答可）：

() ①アッシャー症候群

() ②未熟児

() ③先天性風疹症候群

() ④CHARGE 症候群

() ⑤サイトメガロウイルス感染症

() ⑥ダウン症候群

() ⑦事故

() ⑧髄膜炎

() ⑨中枢性視覚障害（皮質盲等）

() ⑩不明

() ⑪その他 ()

18. 普段使用している補助具等（複数回答可）：

() ①眼鏡

() ②拡大レンズ

() ③単眼鏡

() ④拡大読書器

() ⑤遮光眼鏡

() ⑥なし

() ⑦その他 ()

(3) 聴覚障害について

測定聴力：(不明・測定不能の場合は、「N」と記述して下さい。)

19. 裸耳聴力 右：(dB)
 20. 裸耳聴力 左：(dB)
 21. 裸耳聴力 両耳：(dB)
22. 補聴器装用時聴力 右：(dB)
 23. 補聴器装用時聴力 左：(dB)
 24. 補聴器装用時聴力 両耳：(dB)

25. 難聴のタイプ：

- () ①伝音性
 () ②感音性
 () ③混合性
 () ④不明

26. 聴覚障害の原因（複数回答可）：

- () ①アッシャー症候群
 () ②未熟児
 () ③先天性風疹症候群
 () ④CHARGE 症候群
 () ⑤サイトメガロウイルス感染症
 () ⑥ダウン症候群
 () ⑦事故
 () ⑧髄膜炎
 () ⑨中枢神経性聴覚障害（皮質性難聴等）
 () ⑩不明
 () ⑪その他 ()

27. 普段使用している補装具等を教えてください。（複数回答可）：

- () ①補聴器
 () ②人工内耳
 () ③FM 補聴システム
 () ④なし
 () ⑤その他 ()

(4) その他の実態について

28. 日常の見え方の様子

対象の幼児児童生徒の日常生活における見え方について、あてはまる番号に○をつけてください。なお、眼鏡等補助具使用の場合はその状態での見え方についてお答えください。

- () ①光も感じない。
- () ②明るい光は見える。
- () ③目の前で手を動かせばわかる。
- () ④目の前の指の本数が数えられる。
- () ⑤大きな文字を読める。(例：街中の看板など)
- () ⑥小さな文字を読める。(例：教科書や絵本など)
- () ⑦不明

29. 具体的な様子等があれば記述してください。

30. 日常の聞こえ方の様子

対象の幼児児童生徒の日常生活における聞こえ方について、あてはまる番号に○をつけてください。なお、補聴器等補助具使用の場合はその状態での聞こえ方についてお答えください。

- () ①話し声を全く聞き取れない。
- () ②耳元で大声なら聞き取れる。
- () ③少し離れても大声なら聞き取れる。
- () ④少し離れても普通の話し声を聞き取れる。
- () ⑤不明

31. 具体的な様子等があれば記述してください。

32. 視覚と聴覚以外の障害の有無

対象の幼児児童生徒について、視覚と聴覚以外の障害がある場合は、あてはまる番号
全てに○をつけてください。（複数回答可）

- () ①知的障害
() ②肢体不自由
() ③病弱
() ④その他 ()

33. 医療的ケアの必要性について

対象となる幼児児童生徒に医療的ケアは必要ですか。医療的ケアが必要な場合、必要な医療的ケアを記入ください。

- () ①医療的ケアは必要ない
- () ②医療的ケアが必要である

34. 必要な医療的ケアを記入してください。

35. 対象となる幼児児童生徒の主なコミュニケーション方法

対象となる幼児児童生徒が、自分の思いや意図等を周囲（教員）に伝える主なコミュニケーション方法は何ですか。（複数回答可）

- () ①泣き声や表情
- () ②実物（オブジェクトキュー）を示す
- () ③身振り
- () ④手話
- () ⑤指文字
- () ⑥点字
- () ⑦指点字
- () ⑧普通文字
- () ⑨話しことば
- () ⑩キュード・スピーチ
- () ⑪写真や絵
- () ⑫その他：()

36. 担当する教員の主なコミュニケーション方法

担当する教員が自分の意図等を対象の幼児児童生徒に伝える主なコミュニケーション方法は何ですか。（複数回答可）

- () ①直接、身体に触ってガイドする
- () ②実物（オブジェクトキュー）を示す
- () ③身振り
- () ④手話
- () ⑤指文字
- () ⑥点字
- () ⑦指点字
- () ⑧普通文字、拡大文字
- () ⑨口話、話しことば

- () ⑩キュード・スピーチ
- () ⑪写真や絵
- () ⑫その他：()

(5) 担当する教員の研修について

37. 研修の必要性の有無

対象となる幼児児童生徒を指導するにあたって、研修は必要だと思いますか。

- () ①はい
() ②いいえ

38. 「いいえ」と回答した理由をお書きください。

39. 研修の内容

対象となる幼児児童生徒を指導するにあたって、希望する研修の内容について、あてはまるもの全てに○をつけてください。(複数回答可)

- () ①実態把握に関する内容
- () ②個別の指導計画の立案と評価
- () ③コミュニケーション手段に関する内容
- () ④教材・教具・補助具の作成と活用
- () ⑤専攻科や大学等への進学や就労
- () ⑥卒業後の生活
- () ⑦余暇の活用
- () ⑧保護者への支援
- () ⑨就学前の支援
- () ⑩専門家による講義・講演
- () ⑪実践事例の報告
- () ⑫対象の幼児児童生徒への関わりや課題を一緒に検討する実践型研修
- () ⑬担当する教員同士の情報交換や協議
- () ⑭盲ろう当事者の話
- () ⑮盲ろうの幼児児童生徒の教育を実践している学校や施設の見学
- () ⑯その他 ()

(6) 担当者と連携機関等について**40. 担当者について**

盲ろうの幼児児童生徒を担当する教員について

- () ①基本的に一人に固定している
 () ②特定の担当者が数人いて、その人達だけが関わる
 () ③特定の担当者はいるが、それ以外の教師も関わる（教科等によって）
 () ④その他（ ）

41. 主たる担当教員は、現在担当している子供以外に、視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろうの幼児児童生徒に関わった経験はありますか。

- () ①ある
 () ②ない

42. 校内に盲ろう幼児児童生徒の指導経験者はいますか。

- () ①いる
 () ②いない

43. 連携機関

対象の盲ろう幼児児童生徒の教育等に関して、これまで連携をとった機関がありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

- () ①他の特別支援学校
 () ②都道府県市の教育委員会・研修センター
 () ③国立特別支援教育総合研究所
 () ④大学等
 () ⑤医療機関
 () ⑥療育機関等
 () ⑦ない
 () ⑧その他（ ）

44. 研究所発行物の活用

当研究所が作成した以下の研究成果報告書やリーフレットを活用していますか。活用しているもの全てに○をつけてください。

- () ①リーフレット【みなさまの身近に視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」のお子さんはいらっしゃいませんか？】（平成 29 年 2 月発行）
 () ②盲ろう教育ハンドブック 視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろうの子どもたちの育ちと学びのためにー教職員、保護者、関係する皆様へー（令和 3 年 3 月発行）

- () ③国立特別支援教育総合研究所専門研究B「盲ろう教育における教員の専門性
向上のための研究（平成 19～20 年度）
() ④目と耳の両方が不自由な子どもと係わりあうために（平成 10 年 3 月発行）
() ⑤活用しているものはない
() ⑥その他（ ）

（7）担当者が感じている課題点と取り組んでいる工夫点について

45. 担当者が感じている課題点

対象の盲ろう幼児児童生徒の教育について、担当者が課題に感じていることはどのようなことですか。以下の項目から選択（複数回答可）するとともに、「その他」の欄に、課題に感じていることについてのご意見等を具体的にご記入ください。

- () ①どれくらい見えているのか、聴こえているのかを判断するのが難しい
() ②視覚障害と聴覚障害以外の障害（知的障害、肢体不自由、病弱等）を併せ有しているため、実態の把握が難しい
() ③学習目標、学習内容の設定や評価が難しい
() ④子供に応じた教材・教具の準備や活用が難しい
() ⑤対象の幼児児童生徒のコミュニケーションの方法を見いだすことが難しい
() ⑥伝えたい内容が確実に伝わっているのか判断することが難しい
() ⑦集団の授業の中でどの程度配慮したら良いかの判断が難しい
() ⑧校内での連携が難しい
() ⑨関係機関等との連携が難しい
() ⑩保護者との連携が難しい
() ⑪その他（ ）

46. 担当者が取り組んでいる工夫点

対象の盲ろう幼児児童生徒の教育について、工夫点を自由にお書きください。（自由記述）（例：対象児との関わり方、指導体制、目標の設定や評価、授業内容、教材・教具の活用、関係機関や保護者との連携の仕方等での工夫 など）

47. その他

その他、対象の盲ろう幼児児童生徒の教育について感じていること等をお書きください。また、盲ろう幼児児童生徒の教育全般について感じていること等をお書きください。
(自由記述)

--

48. ☐ 対象者（2人目）について回答する

☐ 終了する

*なお、対象者が2人以上在籍する場合は、「対象者（2人目）について回答する」にチェックを付け、「次へ」を押し、2人目以降も同様に個別回答の（1）～（7）の各項目にご回答ください。

ご協力よろしくお願いいたします。